

第2回天草市総合計画策定審議会議事録

- 1 開催日時：平成26年9月18日（水） 14：00開会
- 2 場 所：天草市役所 2階 庁議室
- 3 出席者：
  - 委員 中川委員、福本委員、松下委員、浜委員、岩見委員、野崎委員、俣野委員  
右山委員、玉村委員、北岡委員、上村委員、砂田委員  
(欠席 松本(太)委員、松本(孝)委員、猪原委員)
  - 天草市 金子総合政策部長、小川政策企画課長、植田企画調整係長 他
- 4 提出資料：①第2回総合計画策定審議会 次第  
②各政策概要書（政策1～政策41）  
③第2次天草市総合計画 基本構想（案）  
④第2次天草市総合計画 前期基本計画（案）  
⑤第1次天草市総合計画概要版（基本構想、前期基本計画）  
⑥第1次天草市総合計画概要版（後期基本計画）  
⑦第1次天草市総合計画 計画体系表  
⑧第1次天草市総合計画（後期基本計画）の課題と提言  
⑨第1回総合計画策定審議会議事録（概要版）

5 内 容

〔1〕開会

〔2〕会長あいさつ

(会長)

第1回目から2ヶ月間で、事前にご覧いただいているとおり、本日配布のものも含め今回の資料が出来てきているわけだが、おそらく行政の皆さんにはご尽力いただいたのであろうと思っている。そのご尽力に応えられるよう、本日も良い議論をしていきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

〔3〕議題

**議題1 基本構想（案）について**

事務局より、配布資料に基づいて基本構想（案）について説明。

(会長)

総合計画というものは、天草市が示されているとおり、大体三層構造で作られている。まず、基本構想については、大きな方向性を指していて、この地域が一体どこを目指して行くのか、どんなことを考えているのかといったことを扱うのが基本構想と言われて

いるレベルとなる。それをここでは8年間を見据えて、大きな理念や方向性、ご説明いただいたようなまちの将来像や、実際この地域はどうなっているか測れる物差しにあたるようなものを掲げようということが、この基本構想と言われているものとなる。この議題3の(1)にあたる三層構造、先ほど申し上げたようにその基本構想を受けて、より具体化するところに基本計画と言われているものが次にくることとなる。具体的な議論に入りたいので、ページを進めていただいて、まちづくりの目標として、第1節にまちづくりの基本理念が掲げられている。「人が輝き活力あふれる日本の宝島天草」というものが大きな目指すところとなる。特に8年間、これを追求するといったことで掲げられているものとなるが、まずは、これに関してご意見をいただければと思うのでよろしくお願ひしたい。

(委員)

いろいろな経緯を経て日本の宝島という言葉ができてきたわけであるが、ここまでの中で、言葉としては非常に便利であると感じている。いわゆる掛け声だというところで捉えていて、宝島と言うと、では宝は何か、宝を探すとか、磨くといった言葉に置き換えていって、具体的に皆さんのその活動の一つに意識付けをさせるといった意味合いとしては、非常にいい言葉だと感じていた。ただ、その言葉が15年を経て、宝島という言葉が今後どのように使っていくのかといったことは一度確認をしておいた方が良さだろうと考えている。固有名詞になっているところもあり、大幅に変えるわけにもいかないとは思いますが、今後8年間の基本構想の中で再度、宝島という言葉の位置付けをきちんと考えておく必要があるのではないかと考えている。

(会長)

宝島という表現、私も天草市に来た時にこの言葉を聞いて、面白いなと思った一人ではあるが、おそらく生活体験で、もしくは最近生活をされ始めた観点も重要であると考えていて、言い方を変えると、この8年間、天草市は行政も地域の皆さんも、この言葉を意識して活動することになっていくわけである。ここで大きく掲げるものとして、私は良いのではないかと考えている。まず宝島に関してご意見をいただければと思う。

(委員)

市民はもちろん、対外的にも、この宝島というネーミングは知名度が浸透しており、いい熟語ではないかと考えている。

(委員)

総合計画に載せるのに、日本の宝島という単語自体は良いだろうと思うが、やはりこれまでの総合計画と、これから作成する総合計画は全く前提が違うと感じている。少子

高齢化など、都市部よりも地方の方が厳しい状況にあるのはもちろんそうだと思うている、その中でも、日本の宝島というからには市民や行政が、もっとこれからの危機感をしっかり持って、その危機感の部分をきちんとここで書いておく必要があると思う。よく読むと人口減少などと書いてあるが、飾りではなく、もっと本当に使える総合計画にしたいと考えているので、日本の中でも特に大変ではあるが、それでも宝島と言えるような総合計画の理念であって欲しいと感じている。

(会長)

全般的にもっと危機感をしっかり出してほしいといったご指摘だろうと思う。その観点はもちろん他の委員の皆さんからもご意見をいただきたいし、事務局の皆さんにも、その点はお伝えしておきたいところでもある。

(委員)

今のご意見については納得できて、なるほどと思ったところである。宝島の、その宝というものは、まだ発掘されていない未知のものからという意味もあると思っている。それで、まだ天草には可能性がたくさんあって、それを上手く出せてないというところをかなり感じるの、見つかっていない宝がいっぱいあるという意味の宝島で良いのではないかと思っている。このままだとかかなりいいように見えるが、裏にはそういう意味もあるということで、わざわざ別の物を付け足すのではなく、このままでいいのではないかと思っていて、危機感を匂わすというのは良いと感じていて、その宝島という言葉に、そこを含めて言えばいいのではないかと思う。初めて見た人が宝島で、そういうところまでを読み取ることはできないと思うが、その危機感を含む未知なる物といった意味合いで、この言葉の説明を継ぎ足すぐらいで良いと考えている。

(会長)

宝というものは必ずしも今見えているわけではなく、それは知恵とか様々なものを出すことで、より輝く物になるわけであり、そういった観点がしっかり入っているものであるということを明確にした方が良いといったご指摘だろうと思う。

他に宝島に関して、もしくは、まちづくりの基本理念に関してご意見があればいただきたい。

(委員)

まちづくりの基本理念について、「また、グローバル化の進展により地域間競争が益々激しさを増してきており、これに対応していくためには九州の各都市との連携を強化しながら各種施策を展開し、九州西岸地域の交流拠点都市として発展」と書いてあり、地域間競争を生き残っていく為に連携をしようということだと思うが、ちょっと理解しづ

らい。地域間連携は広域的な連携であるとか、非常に重要だとは思いますが、逆に言うと地域間競争が激しいから、勝たないといけないわけであり、競争に勝つためには連携だけでは多分無理だと思う。だから、ここは連携強化による施策の展開ということとは別に、検討は必要であるが、例えば、天草としてのブランドの強化、ブランドの確立などといった文言が相応しいのではないかと思っている。日本の宝島天草というのは、おそらくそういう事を意味しているのではないかと思っていて、みんなと仲良くやろうということと、宝を磨いて競争に勝ちましょうということの両方を入れる必要があるだろうと思っていて、連携だけで地域間競争が勝ち抜けるとは必ずしも言えないと思う。

(会長)

確かに競争と連携がどうなのかよくわからないところがあり、こういう観点はよく考えていただく必要があると思うので、そういうご指摘があったということで、状況に応じて対応をお願いしたい。

(委員)

先ほど、おっしゃったことが非常に重要だと思っていて、その危機感をあおるというわけではないと思うが、例えば、その基本計画は誰がやるのかといった話しであると思っている。行政が率先してやっていくといっても、地域住民の中には、その危機感が欠落しているといった現状もあるため、共にやるといった市民への投げ掛けといったものが上手く入り込むと、上辺だけで作ったものではなく、地域住民と一緒にやっていくといった姿勢のようなものが入り、良くなるのではないかと思う。

(会長)

他のところで抱えているとか、前提としているからこそ見えなくなっている可能性はあるが、ここに書かれるということは、かなり重要な事であるため、そういう観点はより明確化していった方がいいだろうというご指摘だと思う。何かこの観点から、もしくは違うことでも、ご意見があればいただきたい。

(委員)

総合計画の基本理念全体のことになるが、天草地域が発展し、皆が生きやすく幸せになるために一番外せないのは、経済的発展の観点だと思っている。天草だけではなく、日本全体での人口減少・少子高齢化という中で、どの地域も産業で発展したいと言っているし、思っているはずである。それでは、その産業の発展とは何かと考えた時に、例えば、天草であれば天草で作ったものやサービスを誰かに買って貰わないと駄目だろうと思っていて、それが、日本中どの地域も買って欲しいと思っている中で、生き残っていくためには、誰に買って貰うのかということをしっかり考えなければいけない。天草

のこれを買いたいと言う人が何人いるかという話しだと思っている。

天草で作った物を、天草の人が欲しいとか、天草で作った物を天草の人が買うというようなことが魅力となる。そのシステムが動いているということが日本の宝島になり得ると私は考えている。それをこの理念に盛り込むのは難しいと思うが、日本の現状や世界の現状を見たら、自分達で作った物を自分達で消費することで、少子高齢化がきても、その中でまわっていくという永続性を持たせたいと考えている。例えば、天草の農林水産物は天草の給食で食べるなど、少子高齢化が進んでも永続性がずっとマーケットにあり続けるので成立すると思っている。それだけでは成立しないかもしれないが、そういうような消費側としての天草も考え方として必要だろうと考えている。

(会長)

ぜひとも事務局に伝えて反映していただきたいと思っているが、それに関して、もうちょっとこういう観点も必要であるとか、それよりもこういう観点が重要であるというご意見があればいただきたい。

(委員)

経済はグローバル化していて、他社より優れた質が消費者に求められていると思う。生産者は他社・他国よりも、よりよい物を作る、生産者の努力目標でもあるし、我が国においても資源を輸入・加工して、それを世界に販売し、今日まで生活を営んできた経緯もあるため、研究を重ねて、本市においても、天草ブランド商品を多く生産する。そういった生産を、多品種に渡りできるような体制づくりを行政と民間と市民と一体となって進めていくべきあると考えている。

(会長)

いろいろな工夫がある中で、おそらく「人が輝き、活力あふれる」というのは、まずは天草の皆さんが色んなことに挑戦していくとか、その中で消費し合うとか、そういった事ができて、ご指摘いただいた事が実現するのではないかと考えている。

(委員)

域内消費というのはもちろん当然のことだと思うが、やはり域内だけでは経済の活性化が難しくなっている現状において、外貨獲得は当然必要になってくるであろうし、そのために選ばれる物になっていかないといけない。選ばれる物となると、いわゆるブランドという言葉になってきて、では、ブランドはどう作るのかという議論になっていくわけで、ここから先の計画の中に何らかの形で、埋め込まれていく必要があるだろうと思う。既にこの中に、天草ブランドの確立という言葉は明確に出てきており、これはこのままぜひ大事にしていきたいと考えている。

もう一点、「市民と行政が自己決定と自己責任の元に」という文言があって、ここが一番重要なポイントになるだろうと考えている。方向性としては、役割がきちんと市民と行政とあって、市民の方々もしっかりやって行きましょう、おそらくそういうことで書いてあると思う。そのため、ここを非常に重要なポイントだと感じた。

(会長)

域内消費に関しては、おそらくこの後続いてくる、第二節以降のまちの将来像、さらにそれを踏まえた環境指標、基本計画といったことが、この内容になってくるだろうと思うので、入口は用意できているという認識で、皆さん大丈夫なのかなとは思っている。ご指摘いただいた二点目、市民と行政それぞれの立場でやっていくことが、さり気なく含まれていることに関して、まだ色を濃くした方がいいという事も含めておっしゃったのか、それともこれで大丈夫という認識で良いのか。

(委員)

基本的にはこれで大丈夫だと思っているが、要するに行政に頼らず、地域でやることは地域でやるといったことを、やはりしっかり言わないといけないのではと思っている。私は行政の人間ではないし、行政の肩を持つわけでもないが、ただ、どこかで行政の役割がどんどん膨らんでいて、行政サービスという言葉があまりにも重くのしかかって、行政としてももう回らなくなってきているというのが現状で、かといってどれか切り離したいが、切り離せない状況にあるわけで、その行政の中でやれる優先順位のようなものを、例えば福祉であるとか、絶対切り離せない部分はきちんとやっていって、その他の地域であるとか、地域間で解決できる問題は地域で解決をするべきということを確認するようなことが必要だろうと思っている。

(事務局)

先ほどの説明で見づらい、わかりづらい部分があったので、序論を見ていただきたい。まずこういう基本理念の下に住民や様々な活動団体や行政が連携協働して、この日本の宝島天草というものを皆で目指そうと、まさに旗印が、ここに書かれているわけである。その旗印をもう少しインパクトあるように言うため、今委員さんからいろいろご意見を伺って、その旗印を、ではどういう風な地域の姿として目指していくのか、というところは活動だとか旗を形にしていかなければならない。それが将来像となっている。豊かで活力のある産業から始まって、未来を拓く交流の町と、非常に抽象的となっている。それで、この基本理念を踏まえて、この5つの将来像を、市民が何十年も永続的にこの天草で住み続けて、幸せな暮らしをどうやって実現して、そのためにどういう環境をこの天草の中に8年後に実現したらいいかというのが、今回初めて総合計画で位置付けようとしている市民が住み続けたいと思う環境の指標となっている。これは市民の皆さん

や様々な活動団体や産業活動をやられている人、行政が共に協働したり連携したりして、それぞれが切磋琢磨して、この指標を皆で、この8年間で目指してやっていきましょうと。先ほど委員さんから出たのは、例えば、基本理念の中でも、いろいろご質問があって、多分地域内経済循環というのは非常に重要だということ、例えば将来像の環境指標の中に豊かな活力のある町というのは、一体どういう姿になったら、私たち皆が幸せになれるのか、そこに例えば地域内経済の循環の仕組みができていて、まさに、このこととなる。例えば、まず地元で取れたものを皆で消費する。自分達が食べないといけないし、消費すると同時に地域の色々な特産品をもっともっと磨きをかけて、天草にしかない物を今度は全国に発信していく。そういう意味合いで例えばこういうことも考え、豊かで活力のある産業の町というものは、そういうことも考えていかなければいけない。例えば一方で生活が重要だと、生活には資金が必要だというお話しもされたと思っているが、やはりそれは働ける場所がなければならぬし、そういう働く場所をどうやってこれから皆で、いろんなソーシャルビジネスであるとか、プチビジネスだとか、一次産業、二次産業の、一次産業の高度化であるとか、いろんな知恵を絞って皆で働く場所を作る。まさに、この基本理念の日本の宝島という旗印を5つの将来像で描いた上で、じゃそれをどういう風に地域の中で、それを目指す姿として考えたらいいかという具体的な物が実はこの22の指標として落とされていて、これを市民の皆さんと行政が目指そうといった関係にあると考えている。それで、これを受けて基本計画の話になっていくと、この22の指標をどうやって皆で市民の活動と行政の活動と、これからは行政の活動サービスだけでは地域を豊かにすることが難しいのが現状なので、市民や様々な活動団体の皆さんの協働による力と、行政の知恵を絞った工夫による、それがいかに連携してそれぞれ役割等を分担しながら、この地域ビジョンをどうやって具体化していくか、さらに基本計画の中で、具体的な柱が出てくるので、ちょっと見づらいかと思うが、そのような関係性でみていただきたい。

(会長)

まず基本理念に関してどうなのかという議論をしているが、この後、各論がたくさんあるので、今までご指摘いただいたように、こういうところは特にポイントだということをご指摘いただきたいと思っている。それでは次に、まちの将来像として、まず文章で書かれているところをご確認いただいて、ご意見があればお願いしたい。

(委員)

将来像 I について、冒頭に基幹産業である農林水産業と書いてあるが、この掲載されているデータによると、農林水産業の就業者が1割程となっており、もう既に基幹産業ではなくなっているのではないかと思ったが、どのように捉えるといいか。

(委員)

今のご意見について、確かに就業人口は減少している。昔、天草は海に囲まれて漁業と農業の島だと言われていた。今でもそういうイメージはあると思うし、どこへ行ってもそのようなことを言われるのも事実であると思っている。基幹産業として我々がやるべきことを全うしようと後継者対策とか、先ほどからブランド化や地産地消などと言われているが、それを頑張っているということをご認識いただいて、基幹という位置付けで、もっと我々はやっていかなければならないと思っている。

(会長)

基幹産業というのは、人の数というよりも、何を意識するかということだと思う。そのため、今ここで基幹産業として皆さんが思われている基幹であれば、それをご発言にもあったとおり、建て直すなどといったことを含めて、どう挑戦するのか、それはおそらく、8年後に、あの時こういう議論をしたから、今こうなった、それでどうなのかということも含めての8年間の挑戦だと思うので、そこは数字で見ていきたいところではあるが、第一産業はそもそも世の中としては基幹産業という言い方をするといった側面もあるので、この後天草市がどうなるか、まだまだ未来は長い、だからこそ挑戦すべきものとして入れようというご指摘もあり得ると思っている。この委員会はざっくばらんに話したいと思っているので、いろいろとご指摘いただければと思う。

(委員)

ここに農林水産業と書いてあるからであって、農業と水産業はまだ天草で誇れるものだろうと思っている。一方で林業の方が、あまり手を入れられてないと感じている。その部分が希薄だから、そのようにおっしゃるのではないかとと思っているが、農業と水産業の方は、そのままとっていいのではないかとと思っている。

(会長)

ご指摘いただいたのはおそらく、課題はそれぞれ産業毎に違っていて、実は農業も林業も水産業も皆さん違うので、それを一括りにするのは、そもそもの発想に無理があるのではないかと考えていて、この後議論する中で、林業はやはりそういったものではないとなったのであれば、また、議論し直しても構わないと思っているので、この後これはどう考えるかというのは、今後の議論の課題としておいて良いのではないかとと思う。もちろん林業はどうするかということも大きな課題であるということのご指摘もいただいたとも思っている。

(委員)

環境指標について、面白いとされていて、これができたら良いと、確かに住み続けた



と思う環境だと思って読んだところであるが、もちろん評価をする方法についても、数値にするとか、その象徴的なものは各部において達成度を測るようなことが載っているが、例えばある項目については行政が非常に弱いと、その中でも市民のNPOであるとか、市民活動によって草の根的に充実しているような項目が出てくるかと思っている。しかし、その中で市民がその項目は非常に満足度が高く、優れているというような評価となった時に、それをまるで行政が頑張ったかのようにとられるようなことになると、本当はこの部分は行政に頑張って欲しいが、無いから仕方がなく無償ボランティアで市民が頑張ってやっているというようなこと、でも表面から見たら、それがあつたので満足度は高いといったことは起こり得ると思っている。市民生活であるため、いくつも書いてあるように、市民と行政との協働なので、市民ができるのであれば、そうしたら良いという気持ちもあるが、行政が作る総合計画、行政がやろうとしている総合計画の中で、どのように取り扱うとか、どのように評価するかということは、かなり難しいことだろうと感じている。その難しさを、今後どういうふうに解決していこうと考えているのか、そのあたりのビジョンについてお尋ねしたい。

(会長)

おそらく最初の基本理念の話があつたところでも、それぞれの責任や役割をどうするか、もしくは地域住民と共に行うというのが見えた方がいいとか、ご指摘があつたことと共通していると思う。これらの指標に関してどういう位置づけなのかなど、事務局に補足をお願いしたい。

(事務局)

ここについては、中々悩んでいるところである。ただ前提としては、この基本構想は、これから地域に住み続けたいと思うために、地域が豊かになって、皆が幸せになつてということを目指そうとしている。そうすると、今までの高度経済成長や人口が増えている時は、行政が何でもサービスやりますということで良かったかもしれないが、これからの時代は、社会経済状態が大きく変化するので、市民の皆さんや活動団体、企業も含めた様々な主体とやるべき事もあるだろうし、行政がやるべき事もある。両方が連携協働して支え合つて、それぞれのモチベーションを上手く重ね合わせてやっていく、そういう事が前提になるだろうと考えている。つまり、どれを見てもやはり市民の皆さんと行政がいかに連携協働して、繋ぎ合わせをしていくから、こういった目指そうとしているイメージ、将来像が具体化していこうと。例えば、子どもが元気に学校に通っていることっていうことを、聞き方は色々あると思つていて、どういう主体で聞いたらより現状がわかつていて、自分達も参加して、自分達も関わり合つていよう人達に気付きを聞いて、現状であるとか、あるいはアンケートをとつてやった方がいいという場合もあるだろうし、あるいは基幹産業が潤っているといったことは、一般の市民の

皆さんにはわからないだろうから、これは農林水産業に従事している、関連している人達に聞いて、自分達はこうやっていて、今こういうことだということを知った方がいいだろうと思っている。あるいは市民が安心して暮らせる環境ができている、これは天草市民全体を対象に抽出したもので聞いた方がいいだろうと思っている。それぞれ、その指標の設定によって、活動に関わっている人達、あるいは全市民に聞いた方がいいなど、そこは根拠を持って整理していかなければならない重要な部分になると考えている。

(委員)

やはり、かなり難しそうであるが。

(事務局)

これについては、やはり試行錯誤してこれから8年間でやるわけなので、仮に様々な政策を行っていったら、ここを改めた方がいいという改善点が出れば、それは改善していけばいいわけで、作ったら終わりではないため、常に改善し続けようという前提で、そこは皆さんのご知恵も、各団体等のご知恵もお借りしながら設定をしていきたい。

(委員)

この指標というものは、市民アンケートからできたものなのか、それともそちらで考えられたものなのか、ご教示いただきたい。

(事務局)

今回のような基本構想にこのような環境指標というものを設けるのはめずらしい取り組みで、やはり、総合計画というものは行政だけの計画ではないし、市民の皆さんと一緒にやって、この計画の将来像を目指してやっていくことが本来の姿であることから、ここで市民の皆さんと行政が互いにやるべき事をやって、どういう状態が本当にこの天草に住み続けたいのかということについて、将来像を元に考えてみたものである。これは事務局の方が考えて、産業であったり、人づくりであったり、保健、医療、福祉、生活環境、あと道路基盤・整備など、そういうものを考えて、この将来像が5つできてきたことに、それぞれ指標を作成したところである。ただ数が多いところ、少ないところもある。安らぎのある快適な町は、生活環境とか、保健医療、福祉部分も入っているので、項目が多くなっている。これは事務局で案として今回ご提案しており、これが通れば、この環境指標毎に各基本計画を考えている専門部会において、これを実現するため、達成するためにそれぞれ政策の内容が決まってくるという形になっている。

また、議論する時に、毎年いろんなアンケート調査、特に総合計画に関するアンケート調査は経年的にとっていて、あるいは幸福量調査であるとか、それから今日出席している関係部門で、将来のプロジェクトを作っており、福祉部門、教育部門であるとか、

各部門がそれぞれ個別に色々な団体とのヒヤリングや別のアンケートから、たくさんの市民の皆さんの気付きが集まっていて、そういうものを整理しながら、この基本理念と将来像をどう実現して行くか、そういう気付きに基づきながら事務局を中心としたプロジェクトで作成してきた計画となっている。

(委員)

最近、移動圏ということをよく言われるが、天草の中で交通不便地帯、あるいは行楽地帯など、その中でこの未来を開く交流のまちという中で、公共交通体系というものがあり、天草市の将来の財政、その下に自治体経営が安定したというのにも繋がると思うが、将来像とすれば、例えばコンパクトシティとか、そういう将来像について、どのように考えているのかお尋ねしたい。

(事務局)

コンパクトシティという部分については、これから議論していただく各政策案の中でもうたっていない。そういったご意見をいただきながら、そのような内容を入れていくということも、それぞれの専門部会で議論をしていかなければならないだろうと考えている。

(委員)

いわゆる交付税が減っていく中で、今でもバスなどには補助金がかかり出ているので、そういったものも含めて、やはりそれが市民の皆さんの移動圏を満足させるためには必要であるかもしれないが、一方で財政破綻につながるだろうと考えている。将来的にはそういう構想というものも頭の片隅に入れておいた方が良いのではないかという提案として捉えていただければと思う。

(会長)

将来像と併せて環境指標の議論もしていて、基本構想全般として、今この議論が終われば、その後基本計画に入るので、基本構想全般に関してもご意見いただければと思う。もちろん環境指標のことの各論でも構わないのでよろしくお願ひしたい。

(委員)

まちづくりの基本理念に「私たちが暮らす天草市には、国立公園に指定されている素晴らしい」とあって、今度は世界遺産に登録するということで精一杯頑張っていらっしゃるところかと思うが、この国立公園は、素晴らしいとは言いながらも、仕方ないところではあるが、我々に対してはデメリットもある。今、風力発電を計画しているが、国立公園の中だからできないということで、県から指摘を受けたところである。そうであれば風景が大切なのか、

米を食べる方が大切なのかとなってくる。だから、私としては経済があつての、いわゆる風景だと考えているので困惑しているところでもある。そして、世界遺産についても登録されることは間違いないところだと思っているが、同じような弊害が出てくると思っている。そういうことも考えなければならないと思っていて、皆さんは第一次産業でないから気付かないかもしれないが、第一次産業に従事している我々は、いいところもあるかもしれないが、マイナスの面もあるという事もしっかりと考えていただいて、政策につなげていってほしい。

(会長)

そういった観点も議論の中でご検討いただきたいと思う。豊かで活力ある産業のまちを目指しつつ、文化を育み人が輝くまちであるとか、いろいろなものを組み合わせて上手く作っていかなければならない。ある部分は潰し合うといったことになっては困るので、できるだけ相乗効果があるようにしていきましょうといったことが、こういう計画を並べるところだと思っている。先ほどのことについても、だからといってやるなといったことではなく、だからこそ効果的なやり方を探しましょうと、だから宝島という話しなのかもしれないが、新しいやり方も見直すことも挑戦しましょうということをぜひやっていきたいと思っている。では、この将来像から環境指標に関わるところで、まだまだこの後、基本計画のところに入っていくので、そこでもできるかもしれないが、ここに関して他にご意見あればお願いしたい。

(委員)

基本構想のところ、思っていたよりも説明を受けて、もっと市民との協働に重きを置いているというような印象を受けた。きっとこれをもって市民の方に説明や情報発信されると思う。そうであれば、やはり、どれだけ今の状況が厳しいのかということを実際にしっかりと書いて、これだけ厳しいけれども、でも一緒に力を合わせて、こんな良いところにしましょう、というようなものにしなければいけないだろうと思っている。きっと現状をしっかりと理解していただくと、あれもこれもやってほしいとは言われなくてもいいかとも思う。情報共有というからには、きちんと正しい情報発信をするということは不可欠なので、それを総合計画にどう盛り込むかはわからないが、正しい情報をきちんと発信されていることによって担保される総合計画だと思っている。

(事務局)

財政状況については、基本構想に、見通しとして載せるようにしていて、次に説明する基本計画にも載せるようにする。今後、交付税が減ることになっていて、それも出さず予定だが、これについては作成中のため、大体的見通しができ次第載せる予定である。市民の皆さんの意見については、これも載せてパブリックコメントをかけることとしている。それと合わせて、まちづくり協議会毎に説明にまわり、そこで市民の皆さんへの説明ということに変えさせていただきたいと考えている。

さらに、第1次の中では、出前講座という形で年に数回、希望される場所、老人会や地区振興会に意見交換にお伺いさせていただいた。そのあたりのPRが不足している部分があるかもしれないが、そういったことをどのように話していくかということも、今後検討させていただきたいと考えている。

(委員)

志柿や楠浦といったそういう町で言うと、それぞれコミュニティーセンターがあり、そういうところで、経営的に厳しいとか、いろんな面で苦しいっていうのはわかっているつもりである。しかしながら、少しでも貰えるものは貰ってくださいというようにコミセンの事務員や主事さんであるとか、そういう人達には、そういった気持ちでいる。だから、前の時にもおっしゃっていたように、地区振興会で、何か経済的な物を考えて、例えば、宮地岳など成功してらっしゃるところがあるので、そういうふうなところをいろいろと作って、自分達の町は自分達でといったことになるだろうと思っている。

(委員)

現在、地域まちづくり計画というものを、まちづくり協議会でそれぞれ作るということで話があるが、私は今までのような計画であればやらないと、同じようなことはしないと、やはり地域の住民の方々に、この計画は作らしてほしいという話しを、会長さん方をお願いして、今までであれば、行政の場合は行政の職員の方々が地域の人達の意見を聞いて、それを自分達がまとめて計画を作ると、それを今まで何十回と作ってきている。であるから、今回は地域の方々が、自分の地域の事は自分達でやるという意欲の下で、そういう計画を作っていく。そうすることによって、活動していく中に大浦振興会とか宮地岳振興会みたいに、経済的なものは後から付いてくるものだろうと思っているので、できれば地域の方々が主体となっていていろんな活動をしていく中で、地域にお金が落ちるような仕組みを作っていただきたいというのが、私がお願いしたいなと思っていることである。確かに行政は今までみたいに、何でもやれるだけの財政状況では無くなってきているので、やはり自分達で考えて行動を起こすということが大事だろうと考えている。

(会長)

それでは一旦基本構想から、今度は基本計画の方に移らせていただきたいと思います。もし何かあれば、戻る事も含めて進めていきたい。それでは、前期基本計画について、まず事務局から説明いただきたい。

## 議題2 前期基本計画（案）について

事務局より、配布資料に基づいて前期基本計画（案）について説明。

（会長）

基本計画の具体的な政策、中身に関しては検討中であり、次回具体論をやることになるが、大きな枠組みとか、考え方について本日議論しておきたい。さらに確認事項として、先程まで議論をしていた基本構想については、これから8年間でどういう方向性を目指していくかといったことを考えていたものであった。それを踏まえて、基本計画については、まず4年間こんな感じで進めていきたいと思いますという事を語るのが基本計画になるわけである。後期計画はその後の4年間で考えましょうと。この2つの前期と後期でやっていくことで基本構想を実現していきたいということを考えていることになる。その基本計画の中で、ここに挙げられている、産業経済部門から総務企画部門までの7部門、いわば市役所を横断的に7つの部門として考えて、それぞれどういう方針で進めるかということをお願いしており、その中に現時点では41の政策を挙げていますとのご報告があった。であるから、この基本計画で掲げられている経営方針、第3章になるが、このあたりが特に議論するポイントになると考えている。網羅的にやらないと議論が偏る可能性があるので、順番に創造性豊かな産業の町づくり、産業経済部門のところに関して、まずは確認していきたいので、ご意見のほどよろしくお願ひしたい。

（委員）

基本構想を支える基本計画という認識であるが、基本構想で挙げられた、22の環境指標っていうものがせつかくあるので、この指標の、例えばこの基本計画の中のこの部門の何番は、環境指標の何番を支えているといった連動性はどうなっているのか。

（事務局）

現時点でそこまでのしっかりした整理はできていないが、最終的にはこれに対してどれが該当しているというものを整理していかなければいけないと考えている。例えば、創造性豊かな産業のまちづくりには何番と何番が関連するという位には分けられるとは考えているが、内容としてまたがっているものもあるため、明確に一つに対して一つといった分け方は難しいと考えている。まだ、決定ということではなくて、政策数等が固まらないとなかなか連動もさせにくいので、今回ある程度固まれば次回ご提示させていただきたい。

（委員）

天草で生産された品物を販売するアンテナショップはあるのか、お尋ねしたい。

(事務局)

3年前に横浜のイトーヨーカドーの中に10坪程度の店を天草宝島市場ということで設けている。天草産品のみを設置したアンテナショップということであれば1箇所、それと、東京の銀座熊本館に置いていただいている。ここは天草産品だけの取扱いというわけではない。今後、増やしていくか等については、運営的に厳しいものもあるため、いろいろと検証しながら、どのようなスタイルで販路拡大を目指すかなど今後検討させていただければと思う。

(委員)

非常に難しいところだと思っているが、例えば観光協会であれば、産業経済部門と観光文化部門と地域振興教育部門ってというのが関連してくるかと思っている。その関連性を分けて考えるのか、どこか横串をさしたような形での議論のような場があるのか、そこを今までも行政の中でも、経済部門にあたり、文化部門にいたり、多少動いていったかと思う。非常に分けにくいというのが実はあって、ここで議論がはたして可能かどうか、認識として一体となった考え方が必要だということを持っておくべきでないかとは思っている。私が答えを持っているといったわけではないが、ここは繋いでおくということの認識は必要だろうと思っている。

(会長)

どうしてもこういう部門というのは縦割りになっていくようなことがあると思うが、そういったお互いに繋ぐような工夫ということについて事務局はどういう観点で考えているのか。部門というものは明確にしていけばいくほど、もしかすると横断的テーマが扱にくくなる可能性があると思っている。

(事務局)

7部門の総合計画の検討部会でも議論があったところである。やはり1つは、どうしても部門というものに置くと、縦割というイメージが強まる傾向にあるが、ご指摘のように各生産物と産業と観光と地域というのは、例えば、農業の6次産業化でいうと、いろんな物と結びつくかと思うが、それをやはりトータルに繋ぐ部分について、しっかり意思表示を施策計画の中に入れ込むと。それと部門が7つあるわけなので、勝手にやるといったことでなく、部門間連携というものが出てきて、連携して相乗効果や付加価値を上げていくと、こういう仕組みを用意しながら、そこで例えば今言ったような3つの部門が連携していく。教育の問題は教育部門だけではなく、地域部門とか住民自治とも連携しなければいけない。こういうのは、やはりそういう仕組みを用意しながら、連携して相乗効果上げていくというような仕組みづくりを検討し進めていきたい。

(委員)

天草ブランドの例えば、産業経済部門の中の天草ブランドの浸透というものと、観光文化部門における、天草の観光地としてのブランド力というものがあり、これを別に考えるのか、トータルとして考えるのかということが必要なのかどうかということである。

(事務局)

これも今後の課題になるが、発信力であるとか、総合的な生産性を上げていくという時に、1つの方向性のようなものを出しながら、それを皆でぶら下がりながら横で繋いでいくという手法もあるし、それぞれが競い合いながら相互連携をすることによって価値が上がるというやり方もあるし、そこは施策計画のテーマ毎にどういう生産性を上げた方がいいのかということとは考えていかないといけないと考えている。

(委員)

その地域のブランドというのを作り上げていくのは、非常に難しいと感じている。今ある物が全てのブランドという風に昇華させるというか、今あるものをブランドとして磨き上げていくパターンと、見せ方とか見え方、角度を変えることによってブランド化していくというパターンがあるかと思っている。実は今日まで、サンタクロースが天草に来ていて、グリーンランド国際サンタクロース協会という世界的な組織の方々がおみえになっていた。その中で1つ実験的なことが行われたところであるが、苺を植えて、これをサンタベリィという名前にして、今植え付けると12月には収穫できるということで、ケーキに使おうということになっている。では、そのサンタクロースっていうのを、今後その地域の中におとして位置付けていくかという議論もしないといけないだろうとは思いますが、一方で何故サンタだという話しになった時に、世界遺産の話と合うだろうと考えていて、16世紀から今日に至る前のクリスマスを祝い続けてきたという史実が実はベースにあって、サンタクロースの色合いを今、その天草というブランドの中に味付けというか、色付けをしていて、それが盛り上がることによって、サンタが来て植えた苺が今後天草のブランド品として農産品として、それがいい値段が付く方向に向かうのではないかとということも今ちょうど取り組まれていることなので、1つの事例として紹介したが、そのようにブランドを天草全体のブランドとして、やはり位置付けておく必要があるのではないかとこの風に考えている。天草全体のブランドが確立する事によって、天草産のものがいいという、イコールというのがやはり出てくるだろうと思うし、さらにその延長線上に地域ブランドが高まることによって、最終的には天草は良いという事で天草に住み続ける事の価値のようなものを見出していけるのではないかとこのふうにも、飛躍的かもしれないが、そこまで考えてしまう。だから、それぞれの産業別とか各分野でのブランド化ではなくて、天草トータルとしてのブランド化というものをどこかに方向付けた方がいいのではないかとこのように思っている。



(委員)

やはり観光まちづくりという言葉が、観光とまちづくりが合体していると。だから、そのところも今の話しにあったように、このまちづくりと観光というのはイコールではないが、やはり地域が輝くところにしか人は集まって来ないという、そのためにはどうやって地域を輝かせるかというのがまちづくりになるわけだが、そういったこともぜひ踏まえて、横入りさせてもらって一緒にやっていただければありがたいと思っている。

(会長)

どうしても縦割りになりやすいこういった部門毎の方針。そこをどうやって乗り越えて行くか。そういった象徴的なブランドというものはおそらくそうだろうし、それ以外の工夫も必要だということだと思う。その時に、実は先ほどの基本構想が重要なわけである。いわば地域の姿としては部門を横断的に取り組むことになるわけであるから、それがどこかの部門だけ頑張ってもできない事はたくさん並んでいるので、結果的にこの基本構想を評価した時にできていなかったら、どんなに部門計画が良かったとしても、ある部分は良くないということになるわけなので、今のようなブランドに関して、基本構想の方で明確にうたった方が良いのではないかということもおそらく出てくるのだらうと思う。そのため、今回でも次回でも良いが、もう少し横に繋ぐ上でこうしたら良いのではということがあればご指摘いただければと思う。それでは順次進めさせていただきたい。2の歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり、観光文化部門に関して、ご意見ご指摘をお願いしたい。

(委員)

先程も、観光について、資源について話しをしたが、「観光のまちづくりを推進します」とあるが、ここの前に一言入れて欲しいと思っている。地域、地元の要望や意見を取り入れながら、まちづくりを推進しますということをおできれば追加することをお願いしたい。

(会長)

この観点はこの審議会でもできる議論だと思いますので、今そういったご意見いただいたが、皆さんからご意見あればお願いしたい。

(委員)

基本的には前提はそうだと思う。それを言うか言わないかっていうことだろうと。別に言わないからと言って全般的な流れとしては、行政だったり住民だったり、色んなところで協力してやって行くというのが、おそらく基本の部分なので、そのまま書いてもいいし、書かないからと言って、そういうことをしないわけではないと思うが。

(会長)

先ほど基本構想でそういう前提であるということは確認している。しかし、特に観光の側面は、そういった事が重要だということをご発言いただいたと思う。一方で要望を取り入れるとなったら、誰が取り入れるかなどとなり、收拾がつかなくなることもあろうから、やはり市民がお互いの意見を出しながら活動をしていくという前提の下で考えていければと思う。要望を取り入れようとする、行政がやることになり、先ほどの議論と部分的に合わなくなる可能性もあるため、その観点は検討していただきたい。しかし、市民の声を出していきながら活動することは必要だろうと思う。共に取組む方針的なものが必要だろう。

(委員)

産業経済部門に関連することで、天草の新しい何かを生み出していこうとか、創造性豊かにやっていこうという姿勢も大事だとは思うが、既存企業の姿勢の是正、つまり、企業指導をもうちょっとしっかりやっていくといった視点も必要ではないかと思っている。今まで天草に来ていくつかの企業を見たが、結構酷いといった印象を受けている。労働条件や、労働環境が安全性をあまり考えていないなどといったことであるが、そういう部分を、もうちょっと行政として指導していく、チェックしていくという視点も入れることを検討した方が良いのではないかと思う。

(事務局)

地場産業、地場企業の経営相談などといったところについては、これまでも商工会議所等において行われてきているとの認識であるが、それに対する様々な支援といった形でやってきているところである。また、来年度より新たに商工会議所、あるいは金融機関の連携した組織として、中小企業の相談、あるいは新しく企業を起こす企業の相談等を行う起業創業支援センターというものを立ち上げる予定である。その辺については、今後より強化していく方向性で取り組んでいるところである。労働環境に関しては、労働基準監督署といった国の機関もあるので、これまで同様に十分連携していきたいとは考えているが、中々その姿勢も異なるので難しい面もあるが、今後検討はさせていただきたいと思っている。

(委員)

基本計画を読んでいて、やはり天草の将来のために、産業に関しても、観光に関しても、その天草の物を買いたいとか、天草に住みたいとか、天草に行きたいなどといった天草のブランディングの成功ということが、とても重要になると思っている。そのため、例えば、政策にブランドといったような形で入れるなど検討してみてもどうかと思っている。

(事務局)

ブランドというところはかなり難しいと思っているが、天草全体をブランド化するって

う部分については、やはり観光地であるとか、品物、商品として、それを乗せて発進して行くというか、いろいろと手段があると思っているが、これまでの物産と観光は、色んなイベントなど、そういうもので勉強はやってきているところである。さらにシティプロモーション、シティセールス課といった部署を設置する自治体もあるが、やはり横串を刺して連携していくしかないだろうと今のところは考えており、その政策をどこに入れるかということが中々、難しい部分だと感じている。確かに、第1次の計画では天草ブランドの確立というのは1つの項目で出ているが、今回の部門別の方針とか、今回の作り込みの仕方では、ブランドを突出させるといったことはちょっと厳しいだろうと考えている。それもあわせて政策概要の中に落とし込むのか、検討させていただきたい。

(委員)

例えばよく聞く話として、関東の方で天草について聞くと天草四郎や切支丹といった、キーワードはいくつか出てきたとしても、その先が全く出てこないと感じていて、それもブランドと言えばブランドなのかもしれないが、おそらくそれは教科書によって、全国の知名度だけは持っているということだろうと思うが、よく観光地にありがちなのは、その見え方によってブランド化していったものが大半であったような気がする。ただ、そのいわゆる地域をブランド化していくということは、今度は見せ方を考えないといけないということに入ってきて、これはおそらく相当難しい作業であることは間違いないだろうと考えている。うちはこのブランドでいくということを決意しないとけないわけで、では誰がどうやって決めていくのかということも非常に難しく、これを例えば市役所のどこかのポジションに任せるとするのも、恐らく大変なことになるだろうという気もしている。この辺はいわゆるプロフェッショナルの手を借りながらやっていくというふうに考えておかないと難しいだろうという気はしている。

(委員)

観光文化部門については、網羅されているので、悪いとも言えないし、良いとも言えないと思う。これは全般的な事ではあるが、網羅されているということが、ちょっと伝わってこないような気がしている。

(事務局)

施策体系図を見ていただきたいが、今議論している経営方針及び政策方針の位置付けについて、基本構想を踏まえて、各部門が基本構想の将来像を実現していくためにある程度網羅的に考えて、それをもとに戦略を立てていくといった指示書になっている。それを受けて次回以降検討していただくが、部門ごとの政策が出てきて、その政策を踏まえて施策計画があるといった体系となっている。施策計画は様々な活動や事業によって達成されていくわけであるから、各部門に対してこういう様々な広い視野を持ちながら、相互関係しながら、こう

いう問題を深掘りするという指示書といったイメージで、そういう視点で流れを見ていただければと思う。

(委員)

それはよくわかるが、何か全般的に網羅されている事の中で最終的には、その地域側で優先順位を付けていけないといけないのだろうと思う。ボリューム感であったり、優先順位であったり、その前段の話であるということの理解はしているつもりである。ただ、最終的には優先順位を付けないと、全部はできないだろうということも思っていて、全部やるのか、全部はやるとしてもボリューム感を変えていくとか、そういうことだと思うが、もうちょっと色が付いていてもいいのではないかと感じたところである。

(会長)

指示書といったことでさきほど説明があったが、大きな方向性を指しているので、この後の具体的な施策の中で、そのメリハリがついていくかどうかを、この委員会でも見ていきたいと思う。それでは、次に人が輝く活力あるまちづくり、地域振興・教育部門、ここについてご意見等いただきたい。

(委員)

「地域の実情に即した地域まちづくり計画を策定し、特色ある地域づくりに取組んでいきます」と書いてあるが、これのやり方について、やはり今までの行政の感覚と、180度変わった感覚で取組んで欲しいと考えている。今までの流れの中で、どんなに地域の住民の意見を聞いても、事務局が取りまとめたら、また今までと全く同じ計画にしかならない。これからの8年というのは、天草市にとっては本当に重要な年になると思うので、やはり今度作る計画は、逆に言うと地域の住民に作らして欲しいと私は思っている。それから、「まちづくりの基本は人づくり」と書いてあるが、学校教育に関してはあんまり記載がないと見受けられる。島根県のある高校で、廃校寸前だったのが、今年から3学年とも2クラスになっている。島留学という言葉を使っているが、2クラスになった生徒の半分以上は島の間人ではなくて、本土の間人とのことである。だから、やり方によってはそういった教育あるいは学校運営ができるのではないかというように思っている。その中で、ここに書いてあるが、こういう人をつくりたいと言っているわけである。仕事が無いから田舎に帰りたいのではなく、仕事を作りに田舎に帰りたい、そういう人材を育てると。例えば、天草から出て行った高校生等が、そのまま天草に残るのか、あるいはしばらく外に出ても、30代等になったら、もう1回田舎に帰って自分達は田舎を一生懸命元気づけるんだといった仕組みを作って欲しいという風に思っている。それで、もう1つ、この計画の中に高校生や中学生がなぜ入らないのか、我々みたいな大人だけで考えるのではなくて、やはり中高生がこの中に入って、自分達もこういう天草を作りたいと、こういう天草なら将来帰って来ても良い、というような計

画を作るようなやり方もぜひ考えて欲しいと思っている。

(事務局)

今の部分は意見としていただき、まずは専門部会で検討させていただきたい。

(委員)

フリースクールというのか、不登校の生徒や、家庭の事情で学校に通えない人など、貧困の差等によって教育が不平等にならないようにというような概念であるが、それぞれ生徒に適した教育をしながら、正常な学生に育んでやるというような学校、教育方針といった考えはあるのか。

(事務局)

政策に学校教育の充実という柱があるので、その中で検討できればと考えている。

(会長)

次に、生き生きと暮らせ共に支え合うまちづくり、保健・医療・福祉部門に関してご意見ご指摘をお願いしたい。

(委員)

「高齢者に対しては、いつまでも介護を必要とせず自立して暮らせるように」という文言があるが、いつまでもが、どこにかかるのかわからない。その文言を、もうちょっと工夫していただきたいと思う。また、「障がい者に対しては」というこの言葉がつめたく感じる。障がいを持った人、などといったような言い方にしてはどうか。

(事務局)

表現を検討させていただきたいと思う。

(委員)

特別養護老人ホームの待機者について、自立して暮らせるには非常に家族は大変だということを、事務局の方々にご理解いただきたいと思う。よろしくをお願いしたい。

(委員)

天草にも外国人の方が200名を超えて在住されているかと思うが、地域振興・教育部門には国際交流の推進っていうのがあって、保健・医療・福祉部門には、その外国人に対する記述が全くないが、結構困られているときいている。言葉が通じなくて、とても辛い思いをされているとか、そういったことがあるので、この総合計画の中に、もし盛り込めるものであ

れば、住んでいらっしゃる外国人の方との、よりよい共存の在り方というか、そういうような視点が良かった方が良いのではないかと思います。もう1点、これから少子高齢化が進むという前提について、高齢者の方を何とか在宅でも頑張ってもらって生きがいを持っていただくということであるが、総合計画の中に、高齢者の方もさらに地域に入ってもらおうというようなことを、少しは書いてあるようだが、そういう視点をもっと入れても良いのではないか。

(事務局)

政策に国際化の推進を設けているが、その中で、施策として多様な文化を共有する地域というようなことで、外国人の方々の、今おっしゃったような部分を検討できればと考えている。高齢者政策について、この部門は全体的な政策を、自助・共助・公助というふうに分けていて、高齢者の社会参加や地域貢献については、高齢者福祉の充実の中でも、きちんと盛り込んでいるところである。ここには言葉としては書いていないが、施策としては掲げているところである。

(会長)

それでは環境と共生した安心・安全なまちづくり、生活環境・防犯防災部門に入っていきたいと思う。ご意見等お願いしたい。

(委員)

この部門では、先ほど課題になっていた部分が、障がいのある人という表現がしてあるので、ここと揃えて良いのではと思う。

(会長)

事務局には全般的に調整をお願いできればと思う。

(委員)

昨今自然災害が頻繁に異常気象により国内各地で起こっている。本市において、津々浦々まで再検討して、危険箇所を無くすように、検討を重ねて、最新の視点を持ってやっていただきたいと思う。

(委員)

「子どもからお年寄りまで暮らしやすさを実感できる災害に強い社会環境づくり」と記載があるが、イメージとして防災訓練、防災技術や知識の向上によって、暮らしやすさを実感するのであって、安全だというのは思うけど暮らしやすさとはちょっと違うと思う。

(会長)

言葉の繋がり方とか、防災の範疇のこととか、先程の議論と繋がっておりますので、この観点もご検討いただければと思う。では、次に進みつつ、何かあれば、またご指摘をお願いしたい。暮らしやすい機能的なまちづくり、都市基盤整備部門に関して、ご意見をお願いしたい。

(委員)

三県架橋というのがずっと言われてきたが、ここの中に一言も入っていないようであるため、説明をお願いしたい

(事務局)

記載している、長崎県・熊本県・鹿児島県を結ぶ地域高規格道路の実現というのが、三県架橋のことになります。

(委員)

最初にその交流拠点としての機能を高めていくという書き方になっていて、最後に生活拠点間の移動円滑化のためのというふうに書いてあるが、逆ではないかという気がしていて、生活しやすい、暮らしやすいということからすれば、生活拠点間の移動円滑化が先ではないかだろうか。

(会長)

その観点はご検討いただければと思う。

(委員)

公園に関して、公園に関係する事件等も起こっている中で、公園の中にはいろんな施設があり、樹木が植栽されているが、子ども目線の高さに、どこからでも見えるような、そういった公園の施設作りをお願いしたいと思う

(委員)

三県架橋について、これから人口が減っていく中で、そして世界遺産を崎津に登録目指してといったふうに動いていて、景観上大丈夫なのかとか、それだけ本当に人が使うのか、といったことを感じている。

(委員)

欲しい人と要らない人の意見があるだろうと思っている。国の計画にすら残ってたりするということもあるので、地元からすれば、長年の夢の1つといったわけである。しかし、

おっしゃる通り景観のこと、通行料のことなど、我々天草の者からすれば、便利だろうというイメージもあるし、一方で、それだけ巨額な物を国としてどう考えるのかっていうこともあるので、ここではこういうのを考えましょうということを入れておいて良いのではないかなと思う。

(会長)

それでは次に進みたいと思う。持続可能な自治体経営ができるまちづくり、総務企画部門に関してご意見等をお願いしたい。

(委員)

選択と集中による弾力的な支出による財政運営とはどういうことを表しているのか、ご説明をお願いしたい。

(事務局)

限られた財源の中で、より良い、質の高いサービス、住民が必要としているサービスを選び、その選んだところに集中的に財源を充てていくというような意味合いで記載させていただいている。

(委員)

行政サービスという言葉について、この言葉を入れると行政が全てやらないといけないというふうに見えてしまう。結局職員が減っていて、職員が減るということは、要するに財政状況が悪いから職員が減る、職員が減るとサービスで、サービスという言葉を使うのであれば、低下するサービスがあるということをきちんと住民側に説明しないとけないと思うし、説明をしないとけない時期にきているのではないかなと思う。そうしないと、実際私も市役所の人達と一緒に仕事をしている上で、たくさん仕事を抱えていて、結果どうなっているかっていうと、本来やらなければならない仕事の質が既に低下している状況にあると。であれば、きちんと説明をしておいて、今財政がこういう状況であると、初めにあったとおり、今財政はこういう状況なので、これだけのことは担保するが、ここから先は地域住民を交えてやってください、というふうにやっていかなければもたないと思っている。

(会長)

今までは中々言えなかったことをおそらくかなり行政としては書いたのだろうと思う。それをもっと出してもいいのではないかなというご指摘があり、でもやはり出せないこともあるかもしれないが、その観点はお預かりいただければと思う。



(委員)

歴史と文化の薫り高い魅力溢れる観光のまちづくりの中で、「国内外に広くPRしていく必要があります」で終わっているが、観光振興はPRが観光振興ではないので、ここは言い回しを少し変えてはいかがだろうかと思っている。

(会長)

それでは一通り確認させていただいた。このように再度検討していただいて、次回の委員会でより議論が進められる事になると思っているが、今後の予定として、事務局からご説明をお願いしたい。

(事務局)

まず、先ほど説明したように、それぞれの政策毎に作っているもので、本日いただいた意見も踏まえて、再度新しい部分も次回の会議前には送付するが、これも目を通しておいていただき、次回会議にご意見いただきたいと思う。その時には、成果指標の項目もお出しするので、それについてのご意見もいただきたいと思っている。また、8月中旬から9月中旬に総合計画策定に関する市民の皆様のご意見をいただいたが、2名の方から意見の方が出ているので、それについての対応の方も今後進めて行きたいと考えている。次回は第3回の開催が10月14日、火曜日午後2時からとなっているのでよろしくお願いいたします。

(委員)

総務企画部門の文言の中で、「市役所は市民の役に立つところであるという認識のもと」とあるが、へりくだったような言い方という印象を受けるが。

(事務局)

今策定を進めている第3次行財政改革大綱との関連が出てくる部分となるが、この総合計画の完成前に、大綱は仕上がるような予定で進めているので、その辺の含めたところの表現の仕方も、先ほどわかりにくいというような話しもあったので、財政の話しもあわせて、整理をしていきたいと考えている。それと全般的なところで、文章の長短もあるので、そこについても今後検討させていただきたい。

(委員)

委員の皆さんと共有しておきたいことについて、私自身もところどころ、視点を誤った発言をしていたというふうに反省をしたところである。そのため、ここは一つ一つの事を細かく詰めていく場ではないだろうと思っている、委員の皆さんと一緒にトータルの方向性や具体的な計画などを語り合う場でありたいと思っているので、今後方向を修正しながらやっていく必要があると感じている。

(会長)

発言に躊躇しないで構わないと思っているが、目指すことは、そういった大局的なことをここでは出しつつ、具体度はしっかりと調べてとりまとめていただくといった役割分担は発生しているので、その観点は行政の皆さんにしっかりお願いしたいところである。しかし、しっかりした議論ができているからこそ、そういったことをお願いができるとも思っている。また、こういった議論をしていくと、どうしても当たり障りのない役所の文書になってしまう可能性もあるので、逆に躊躇なく、やはり役に立つところだというふうに志していただくのであれば、それはそれで、大いに出していただきたいとも考えているし、ぜひとも行政としても挑戦したいというのは、どんどん出していただければと思っている。本日予定していた議題は以上となる。次回もさらに活発な議論ができるようによろしくお願いしたい。